



撮影：ハービー・山口（1973年卒） 場所：6号館前

東京経済大学報

2025年度
第58巻 第1号



先取りの気質を受け継ぎながら 時代とともに新たな段階へ

コミュニケーション学部長

佐々木 裕一

全国的にもユニークな 学部としての存在感

今春、日本ではじめて開設されたコミュニケーション学部は30周年を迎え、第31期生となる219名の新入生を迎えました。現在では、2年次から学部を選択するキャリアデザインプログラム(CDP)生が約20名、コミュニケーション学部を選びます。つまり学部定員は240名で、1995年の150名からずいぶん増えました。

30周年を迎えられたことを教職員一同たいへん嬉しく思っております。また卒業生とそのご家族、諸先輩先生方、国分寺市民や地域の関係大学および企業の皆様など、長年にわたるご支援に学部を代表して心より感謝をお伝えしたいと思います。

学部は2022年度より「メディア社会学科」と「国際コミュニケーション学科」の2学科体制となつています。この再編の検討が本格化した2015年はスマートフォンの個人普及率が50%を超え、情報流通経路が変化し、接触・発信情報が個人化していく時代の入口でした。私たちはそのメディア環境変化の帰結を「国境を越えるヒト・モノ・コトの移動」としてとらえ、学科構想を進めました。

コミュニケーション学部というだけでなく全国的に珍しい中、「メディア」と「国際」という2軸を併せ持つ本学

部は、他に例を見ない希有な存在です。そして学生募集においても高い人気を得ています。「国際コミュニケーション学科」には、異文化や観光、英語に関心を持つ学生が多く、日本育ちの外国籍学生もいます。そのような学生の存在もあり、「メディア社会学科」でも世界への発信を志し、留学経験を積む学生が増えています。2学科がまさに車の両輪のようで、学部のユニークさを際立たせています。

創設時より今日まで通じる 時代に対する先見性

私が今あらためて驚かされるのは、学部創設時の先生方の先見性です。1995年に完成した6号館の地下には、アップル製コンピュータを備えた「メディア工房」、収録設備のある「アトリエ」(当時は「ディベート室」)、身体表現の場となる「スタジオ」が今も健在です。これは最近特に注目されている「作って学ぶ」という考え方の先取りで、メディア社会学科の教育理念に今も通じています。また「異文化の人をもてなす」とともに働く」という国際コミュニケーション学科のメッセージも、開設当初の「異文化」コア科目群にその源流があります。

2025年は生成AIが普及した

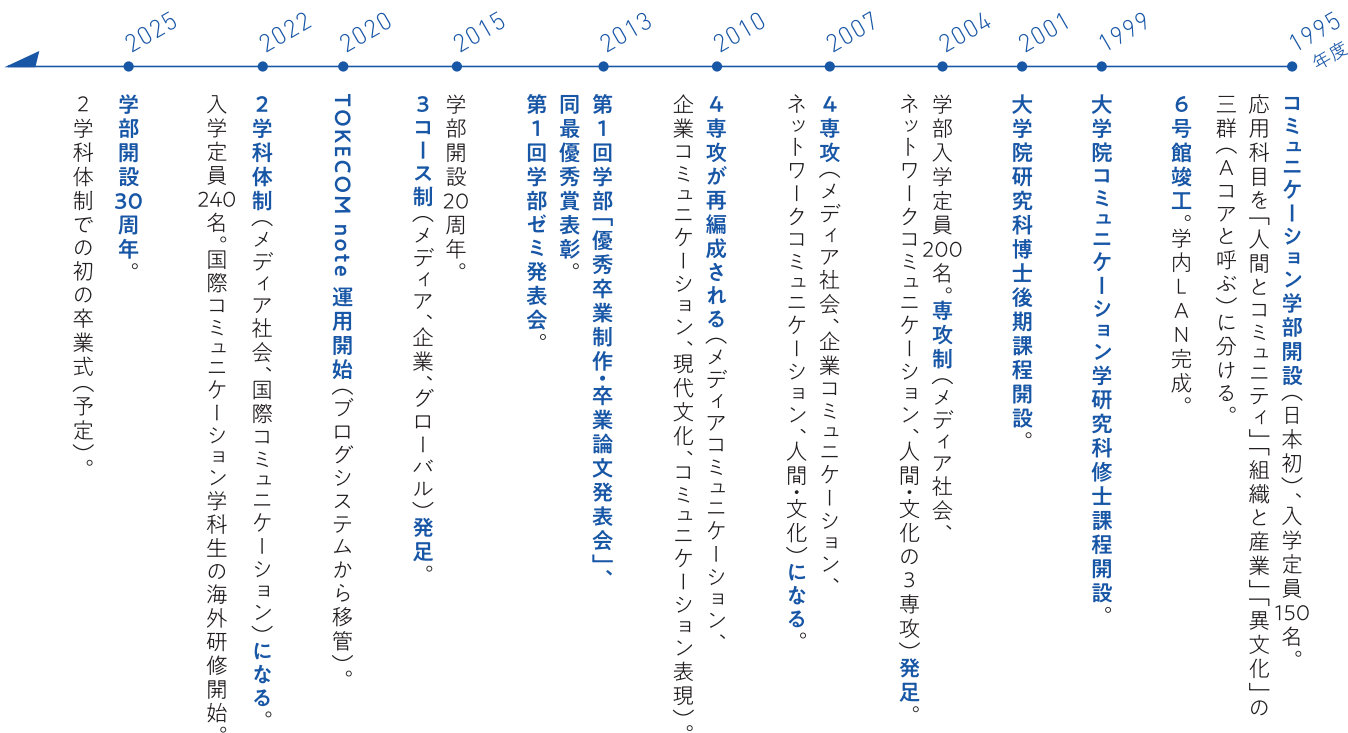
コミュニケーション学部

30年のあゆみ



▲舞台用照明、音響PA、大型スクリーンなどを備えたホール型の「スタジオ」

◀4K高精細映像を撮影・編集できる設備など、クリエイティブな映像制作に必要な最新の環境と機材を備えた「メディア工房」



2025年度 新入生メッセージ



コミュニケーション学部
国際コミュニケーション学科1年
福田 皐月さん

観光・ツーリズムの専門性を身につけ、 実践的な英語力で国際的に活躍できる人材をめざします

高校時代、私は漫画研究部の部長でしたが、部員どうしの交流が少ないことが課題だと感じ、部内のコミュニケーションを変えました。ミーティングで活動へのアイデアを学年間で共有するように心がけたところ、部員の帰属意識や創作意欲が向上しました。コミュニケーションによって組織が変わるという経験ができたことは、高校時代に得た大きな成果でした。

私にはコミュニケーション学部で学びたいことが2つあります。1つ目は、観光・ツーリズムについてです。ヒトやモノの国際的な移動は暮らしを豊かにする

一方で、パンデミックやオーバーツーリズムなどさまざまな問題を引き起こします。これらの課題を解決するために、観光やツーリズムの歴史、産業、ビジネス、社会的影響などについて知識を深め、これからのツーリズムのあり方を考えていきたいです。2つ目は、英語力の向上です。授業や自己学習を通じて、英語を活用するための知識を身につけたいと思います。さらに、海外研修プログラムにも参加して、実際に海外の方とコミュニケーションをとり、実践的な英語力を磨きたいと思います。

私は、東京経済大学コミュニケーション学部で観光やツーリズムの専門性を身につけるほか、英語での市場調査やプレゼンテーションにも取り組み、グローバル社会で活躍できる人材になりたいと考えています。

コミュニケーション学部 | 30周年記念シンポジウムを開催

2025年の秋に30周年記念シンポジウムの開催を予定しています。学部開設以降のコミュニケーションを取り巻く環境の変化を振り返りながら、現在私たちが直面する「AI」技術との付き合い方をともに考えます。シンポジウム終了後には懇親会もありますので、コミュニケーション学部ゆかりの皆様におかれましては、ぜひご参加ください。

日程	2025年11月8日(土) 14:00~17:00
場所	東京経済大学国分寺キャンパス 進一層館ホール
登壇者	西垣 通(東京大学名誉教授) 佐々木 裕一(コミュニケーション学部長) 柴内 康文(コミュニケーション学部教授)

葵陵会館が生まれ変わります！

新葵陵会館

(仮称)

の名称を募集

あなたのアイデアで、新たなキャンパスの未来を築こう

創立120周年記念事業「国分寺キャンパス第2期整備事業」の一環として、新たな学生キャンパスの核となる建物が誕生します。新たな建物は、現「葵陵会館」(食堂、小ホール、集会室等)と現「学生会館」(部室、音楽練習室等)を統合し、雨天でも活動できる半屋外イベントスペースを設け、学生たちが自由な発想で活用できる建物に生まれ変わります。また、長年親しまれてきた2本の大銀杏はそのまま残し、緑豊かなキャンパスの雰囲気を受け継ぎます。

学生たちの多様な生活様式や自由な交流を支える場となるこの新しい建物にふさわしい名称を広く募集いたします。未来へ受け継がれるキャンパスの歴史に、あなたのアイデアを刻んでみませんか？

新たな建物の整備計画

2025年

着工

2026年9月

I期工事部分(地上3階、地下1階)
供用開始予定

→ 食堂、メインラウンジ、音楽練習室、ダンス室、
ミーティングルーム、ラーニングコモンズ等

2028年7月

II期工事部分(地上4階)供用開始予定

→ 部室、小ホール、多目的室、ラウンジ、
書籍・購買店舗、半屋外イベントスペース等

応募概要

以下の予定で建物名称を募集いたします。
詳細は本学公式サイト上でご案内いたします。

募集期間 2025年7月22日(火)～9月30日(火)

応募資格 本学在学生、本学卒業生、本学教職員

応募方法 本学公式サイトのお募りフォーム

選考・発表 選考委員会が選考を行い、
本学公式サイト上で発表いたします。

応募の ポイント

- 親しみやすく未来の世代にも愛される名称
- 建物の役割や学生生活を支える場としてのコンセプトを表現した名称
- 建学の精神や緑豊かなキャンパスの雰囲気を表現した名称



在学生のリアルな声！

輝くTKU生 インタビュー vol.1

学生は日々何を学び、成長しているのか。
在学生に東経大で得た経験や想いを伺いました。

東経大に入学した決め手は、資格取得支援が充実していた点です。私は高校時代から会計専門職に興味があり、大学進学後は簿記や会計に関する資格を取得したいと考えていました。そんな私にとって東経大の会計プロフェッショナルプログラムをはじめとした制度や支援はとても魅力的で、「東経大なら会計についてしっかりと学び、資格も取れるかもしれない」と考え、入学しました。入学後に日商簿記検定2級を取得して、1年次の6月からプログラムに所属しました。

目標達成をめざして 東経大の門を叩いた



経営学部経営学科4年 藤村 歩乃華さん

卒業生のアドバイスで 困難を乗り越えられた

プログラムに所属してよかったと感じているのは、勉強に集中できる環境を整えてくれたことです。受験申込みなどの事務手続きのサポートや提携専門学校の受講料全額免除など、負担や不安を解消してくださったおかげで、試験対策などをしつかりと行えました。また、東経大の卒業生に相談できたことも私にとっては非常にありがたかったです。実は論文式試験の勉強が本当に難しく、勉強方法すらわからない状態でした。そんなときアドバイスをくれたのが専門学校にサポーターとして来ていた東経大の卒業生の方でした。教えていただいた勉強方法を取り入れると、徐々にコツが掴めてきて、模試の点数も上がっていききました。



さらに、東経大は会計系の授業が充実しているので、プログラムで得た知識も生かせる場面が多く、試験勉強では深掘りしないところ

まで詳しく知ることができました。東経大の先生方や卒業生の方々など、周囲の支えもあったから公認会計士論文式試験に合格できたんだと思います。

まずは挑戦してみる その大切さを学べた

私は東経大に入学して、知識面以外にも成長したと感じていることがあります。それは「挑戦する心」です。実は高校時代は逃げ癖や諦め癖があり、挑戦する前から諦めることがありました。公認会計士の勉強中も心が折れそうになつて、「辞めようかな」と考えたこともありました。しかし、プログラムや東経大で学んでいくうちに「続けていたらよいこともある」「挑戦しな

いと成功も失敗もない」と実感して、何事にも挑戦するようになりました。それに東経大には学生たちの挑戦を後押ししてくれる制度や支援がたくさんあります。困ったときは先生方が親身に相談に乗ってくれるので、私たち学生は安心して挑戦できました。

現在、私は公認会計士登録の修了審査に向けて監査法人で実践経験を積んでいます。学ぶことはまだまだ多いですが、先輩方からスキルや知識を吸収して、将来的には「この業界なら藤村さんに」と言ってもらえるような専門性の高い会計士になりたいと思っています。一方で、今年は学生生活最後の年でもあるので、課外活動やスポーツなど興味のあることにも挑戦して、学生生活を悔いなく過ごしたいと思っています。

会計プロフェッショナルプログラムとは？

対象学生 経営学部生 ※他学部生受講可
定員 各年度50名 **選考時期** 6月期／11月期

POINT 1 会計専門職をめざす3つのコース

公認会計士
コース

税理士
コース

国税専門官
コース

POINT 2 提携専門学校の受講料は全額大学負担

POINT 3 卒業生組織が現役合格を後押し

POINT 4 正課授業との連携で理解度アップ

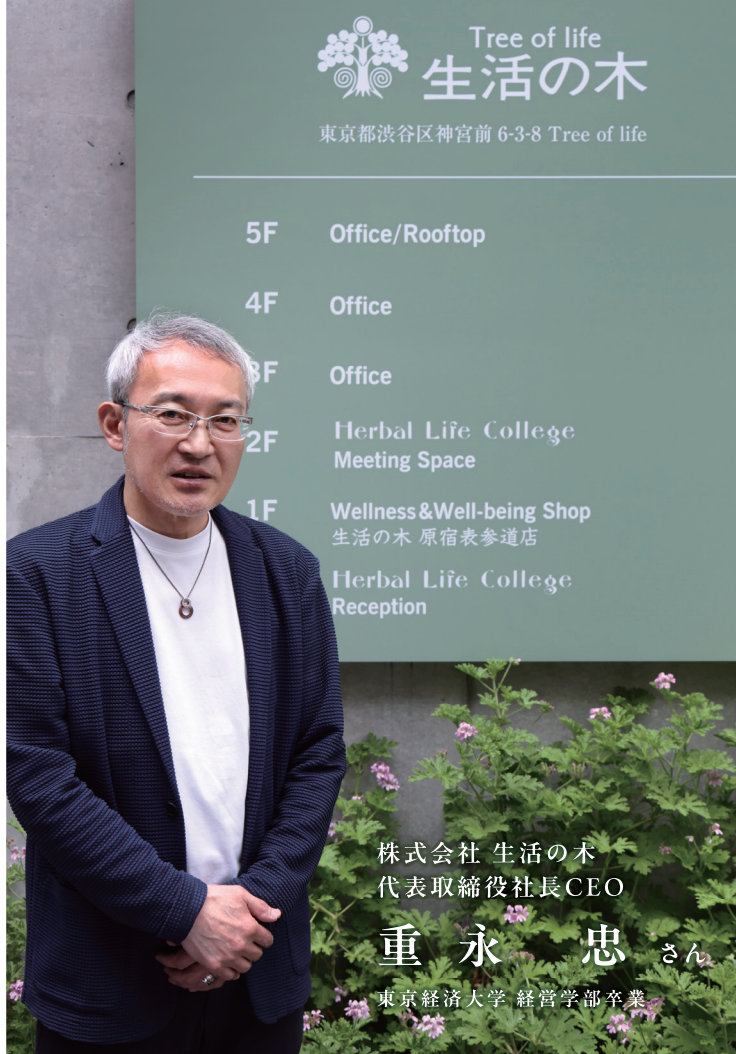
- 会計プロフェッショナルプログラムへの入門講座
- 会計アドバンストセミナー(1～V)
- 専門教員による手厚い指導等

2024年度
合格実績

公認会計士 **2名が合格**
税理士試験 **8名、のべ9科目合格**
国税専門官 **1名が合格**

「香り」で日々を豊かに 社内外から愛される ビジネスの極意とは

多様な業界で活躍する東京経済大学の卒業生を訪ねるスペシャル企画。
今号は、ハーブやアロマテラピーでおなじみの、株式会社生活の木
代表取締役社長CEO、重永忠さんに話を聞きました。



株式会社 生活の木
代表取締役社長CEO
重永 忠 さん
東京経済大学 経営学部卒業

セブン・イレブンと 「真逆」の商売を

—東経大の経営学部を選んだ理由は。
うちは代々商売をやっていて、祖父が写真館を、父が洋食器の製造・販売事業を営んでいました。そんな背中を見て育った私も、自然と商売をしたいと思うように。そのためには経営学をきちんと学ぶ必要があるだろうと考え、進路を決めました。正直いうと、マーケティングや経営に関する科目以外はサボり気味でしたが(笑)、田村紀雄先生のコミュニケーション学の授業は興味深かったですね。当時はまだ珍しい学問領域で、すごく新鮮でした。

—学生時代から家業を手伝っていたので、割と忙しい日々でした。立場はアルバイトでも、周囲からは「社長の息子」と見られますから、人一倍頑張らねばという思いで働いていましたね。

—テニス同好会でも活動されたとか。今思えば、これが人生初の「マネジメント

ト」の経験でした。出身も学年も性格も多様な集団ですから、小生意気な後輩もいるし、誰と誰がケンカしたとか恋愛関係で揉めたとか、色々な問題が勃発するんですよね。ちなみに3年生の時、新入生として入部してきた一人の女性が今の妻です。経営学を学んだだけでなく、生涯のパートナーにまで出会えたわけですから、東経大には感謝してもしきれません(笑)。

—卒業後の進路を教えてください。

最先端の経営を学べる環境に身を置きたいと、株式会社セブン・イレブン・ジャパンに入社しました。東証一部に上場したばかりで大変な勢いがあつた時代です。社長だった鈴木敏文さんは、お客様の立場に立つという「基本の徹底」を繰り返して説きつつ、一方で最先端のPOSシステムを導入し、新たなマネジメント手法に取り組む。本当に学ぶことばかりでした。約3年間勤めて、店長やスーパーバイザーを経験。店舗を運営していくというのは、これほど大変なものかとあらためて実感しました。

—今の仕事にどう生きていますか。

セブン・イレブンの社会への「影響力の大きさ」を目の当たりにしたことで、私もいづれ家業を全国展開したいと夢見るようになりました。当時は、原宿の1店舗しか存在しなかったのですが、同時に、家業においてはセブン・イレブン

のだと思っています。

—社長が社員の誕生日をお祝いするというのは、本当ですか。

社員約600人の誕生日には、私がセレクトした品物にインシヤルを入れて、カードを添えてプレゼントしています。贈るものは、パステスやボールペン、膝掛けなどさまざま。感謝の気持ちを伝えたくて始めたことなので、経費ではなくポケットマネーです。10年ほど続けていますが、最近「うちの会社でも始めました」と、手紙で報告してくる社長さんもいるんですよ。

全国の店舗もできる限り回っていますし、店長研修の後はお酒を飲みつつ趣味や育児などの話で盛り上がりまます。これも義務感ではなく私が好きでやっていること。社員のこと大切だから、様子が気になってしょうがないんですよ。

—読者にメッセージをお願いします。

年齢や経験を重ねるにつれて、仕事というのは、周囲の人のため、コミュニティのため、社会のためといった「For XXX」のスケールを徐々に大きくしていくべきものだと思えるようになりました。儲けたい、有名になりたいといった動機だけでは、必ず行き詰まりますから。若い世代の皆さんも、ぜひ「利他」の精神を大切に、日々の仕事に向き合っていたきたいと思います。

と「真逆のことをやりたい」という決心をしました。これは良し悪しではなく、商売のあり方の話です。生活の木では今、細かなマニュアル無し、個性豊かな店舗づくり、売れ筋以外の商品も取り揃えるなど、まさに「真逆」のビジネスを展開しています。

ハーブやアロマの文化は 次なるステージへ

—生活の木についてご紹介ください。
生活の木は「自然・健康・楽しさ」のあるライフスタイルを提案する企業です。ハーブや精油、植物油などの自然の恵みを世界中から調達し、商品開発・製造・物流・販売まで一貫して「オール自前主義」で手がけています。天然由来成分に

こだわって開発した商品は約2500点にも上ります。

現在、全国各地に直営店約80店、パートナーショップを含めると約160店を展開しており、カルチャースクールなどではハーブやアロマテラピーの普及・啓発にも取り組んでいます。

—ハーブやアロマの文化を日本に根付かせたパイオニア的存在ですね。

昔は、ハーブティーの営業に行くと、「沖繩の蛇(ハブ)を煎じたお茶か?」と聞かれたことも。冗談みたいな話ですが、本当にそれくらい知られていなかったんです。その後、ハーブガーデンやカルチャースクールを作るといった地道な施策も功を奏し、香りを楽しむ人が少しずつ増えていきました。

さらに、「ヨーロッパにアロマテラピーというものがある」「スリランカとインドにはアーユルヴェーダという伝統医療がある」など、海外で見聞きしたことを日本人のニーズに合わせて一つひとつ開発し、展開してきました。

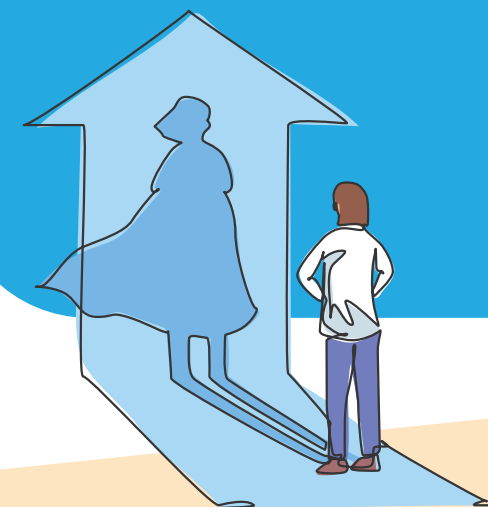
もちろん順風満帆の道のりだったわけではありません。資金繰りのプレッシャーから、頭から足の先まで全身に蕁麻疹が出てしまった時期もありました。多くの人がハーブやアロマに親しむようになった今、生活の木が注力しているのは、QOL(生活の質)向上のお手伝いをする。「眠れない」「更年期障害が辛い」「気持ちが落ち込む」といったさ

起業家の
出身家庭の要因起業家を輩出する環境要因、
特に家庭要因の影響についての考察

今回教えてくれたのは

経営学部
つちや りゅういちろう
土屋 隆一郎 准教授

研究分野：中小企業論

生まれが育ちが
起業家の性向

起業家になることを選択した者の間には一定の共通の特質が見られるとする見方がある。例えば、「リスク回避の度合いが小さい」「裁量を追求する」「せっかち」「運命にすべてを委ねない」といった心理的傾向を元来持つ者が、起業家になることを選ぶのか。この中で、生まれが育ちかという悩ましい問題に対しては、行動遺伝学が一卵性二卵性双生児の比較研究を積み重ねてきており、アントレプレナーシップ研究においても一定の試みがなされている（Nicolaou and Shane, 2010）。遺伝要因と環境要因は複雑に絡み合いながら、起業に至る心理的傾向や能力の形成に影響を与えて

いるとされる。遺伝要因の個別の影響はさておき、起業選択を考察する際、起業家の出身家庭の環境要因は重要である。親が起業家である場合は、その資産移転が子へと容易に進むのに加え、スキルや知識も引き継がれ易い（Dunn and Holtz-Eakin, 2000）。一方、スウェーデンの養子縁組のデータを用いたLindquist et al. (2015) は、生物学的親が起業家的な（過去、自営業者だった、あるいは現在）場合と、養親がそうであった場合はどちらも、子の起業確率は高まるが、養親の影響の方が顕著に大きいとする。先天的要因よりは、後天的要因、特に傍らでロールモデルを提供する役割が指摘される。日本の著名起業家の自伝によれば、ソニー創業者の井深大は、幼い頃、父親の影響から、科学への強い憧れを抱

構造的
影響に関する
研究の現在地

近年のアントレプレナーシップ研究では、出身家庭（Aldrich and Cliff, 2003）「職場環境」（Gompers et al., 2005; Dobrev and Barnett, 2005; 村上, 2015）「地域の文化的・物質的環境」（Saxenian, 1994; Sorensen and Audia, 2000; Okamoto and Kobayashi,

2006; Okamoto, 2018）といった、起業を取り巻くコンテキスト要因の構造的影響が論点の一つとなってきた。起業家は既存組織内の管理者と比べて、自尊心、自由、達成感、刺激的な人生といったものを何よりも望ましいとする。こうした最終価値と、そこに到達するために必要な手段価値として、起業家は正直さ、野心、能力、独立心、勇気、創造性、論理性を求める（Fagenson, 1993）。

鹿住・河合（2018）によれば、地域コミュニティや業界団体といった非公式の支援制度が、女性起業家の自己効力感に対して正の効果を持つ。同時に、女性起業家の自己効力感によって、事業の成長率は高まる傾向にある。

Wywrich（2015）は東西統一後のドイツのデータを用い、価値観の差異

が起業にどのような影響を与えたかを検証した。旧東ドイツでの事業経営に辛酸を舐めた自営業者の子は、開業理由として、既成環境の変革を掲げることが多かった。起業家を親に持つ子が自ら起業するプロセスにおいては、親から子への特定の価値規範の伝承が大きな要因になる。

前述のAldrich and Cliff (2003)

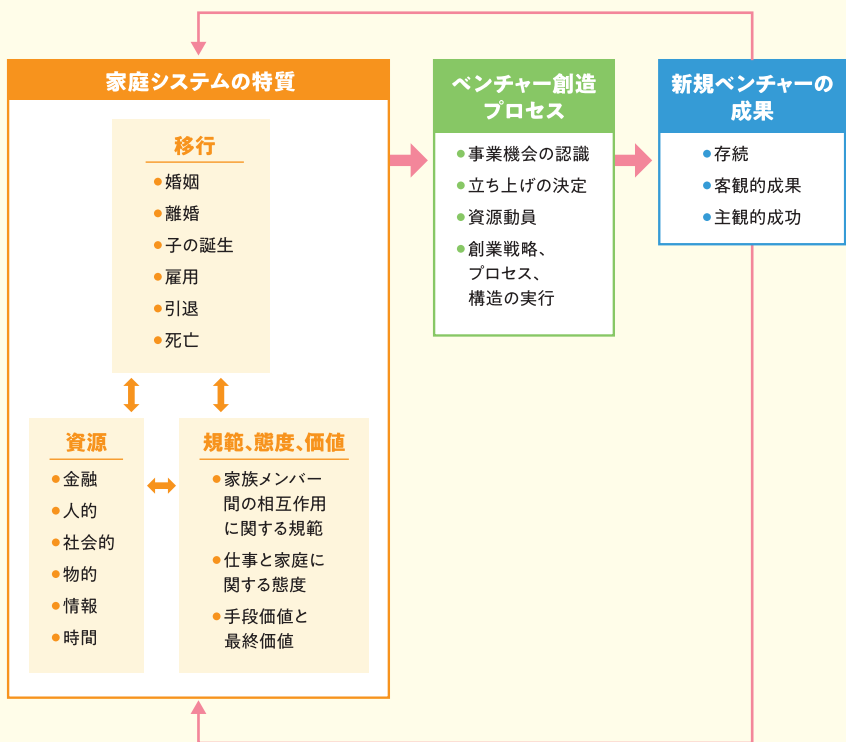
が述べたように、起業プロセスに影響を与える家庭システム要因として、家族の規範、態度、価値の役割が重要になる（図1を参照）。ただし、親の特定の価値規範が子の起業行動に影響する要因については、近年、こうした実証研究がなされてきたものの、依然として限定されている。特に、家庭システム内のメンバー間の関係性を強く

規定する、家族に関する価値規範要因については、検証は必ずしも十分ではない。

台湾を一つのフィールドとし
さらなる研究を展開

昨年、筆者はこの点に関連し、台湾を一つの研究フィールドとし、家計パネル調査データを用いて、出身家庭の価値規範が起業選択に与える影響を検証した。同研究では、家族間の階層性

を重んじる伝統的価値が起業選択に与える影響が検証された。同研究の分析では、同時に、家族メンバーを家計支持の対等なパートナーと見なす価値の重視が起業選択へ与える影響が検証された。一方で、この領域は未だ実証的に明らかでない点も多く、今後も尋ねるべき問いは尽きない。



出典: Aldrich and Cliff (2003), p. 590をもとに筆者作成

図1 新規ベンチャー創造における家庭埋め込み論の見地



お知らせ

アントレプレナーシップ養成プログラム

本プログラムの目標は、新しいビジネスの機会を見つけ、事業を作り上げ、高いリスクに対しても果敢に挑むことができる能力や知識、そしてマインドセットを養成することです。

募集対象 2025年度以降入学の経営学部経営学科
現代経営コースに所属予定の1年次生
※他学科、他コース所属予定の学生は応募できません

所属期間 2年次から修了認定、または4年次まで

定員 20名程度

申請要件 ①「基礎経営学a・b」どちらの単位も取得済みであること
②その他経営学部基礎科目4単位を取得済みであること

選考方法 1年次の2月から3月頃にエントリーシート・面接・GPA(成績評価)をもとに選考。**必ず所定の期間にエントリーシートを提出し、面接を受けてください。**
結果発表は3月下旬となる見込みです。



12月以降にプログラム説明会を実施します。
詳細はTKUポータルでお知らせします。



入試結果 報告

入試課長
橋本 博一

2025年度入試 私立大学志願状況

全国私立大学の25年度志願状況は、前年比106.7%で6年ぶりの志願者増となりました。

25年度志願状況の特徴として、次のようなことが挙げられます。
① 東京地区・近畿地区の上位大規模大学の多くが志願者増、② 小規模大学の志願者減は継続、③ 2月入試の難化で3月入試の志願者が大幅増、④ 受験生一人当たりの出願数が増加、⑤ 年内入試へのシフト進行の継続。(豊島継男事務所「2025年度一般選抜志願状況レポート最終報」より)

本学の2025年度 入試結果

このような入試環境の中、本学の2025年度入試(第1年次対象)の総志願者数は、11,771人(前年比115.9%)。内、一般選抜・共通テスト利用選抜の

グラフ1 本学一般選抜、共通テスト利用選抜志願者数推移

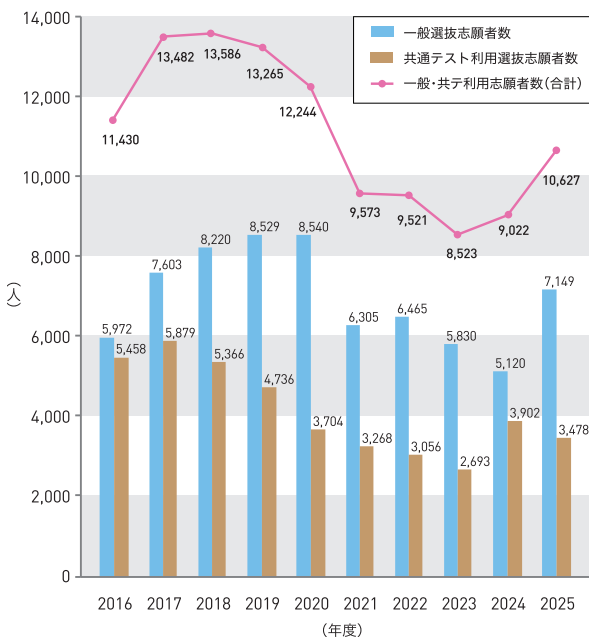


表1 志願者数2カ年比較

入試区分		教科型	2024年度	2025年度	前年比
一般選抜	個別方式	3教科型	1,940	3,284	169.3%
		ベスト2プラス	2,181	2,519	115.5%
	全学統一方式	前期 2教科型	493	625	126.8%
		後期 2教科型	506	721	142.5%
共通テスト利用選抜	前期	3教科型	2,477	2,131	86.0%
		2教科型	1,167	1,067	91.4%
	中期	4科目型	167	133	79.6%
	後期	3教科型	91	147	161.5%
一般・共テ 計			9,022	10,627	117.8%
その他(推薦・総合型)計			1,136	1,144	100.7%
合計			10,158	11,771	115.9%

志願者数は、10,627人(前年比117.8%)でした(グラフ1)。東京志向、大規模大学志向の環境の中、中規模大学の本学でも志願者数増となりました。また、年内入試志向が続く中、表1のとおり、推薦・総合型等の志願者数も前年比100.7%と僅かに増加し、前年度並みの志願者数を維持しています。

2025年度一般選抜は、入試制度を大きく変更し、全学統一方式前期では、複数の学部・学科等を併願できるように、個別方式では、3教科型に出願し、高得点の2教科でも判定するベスト2プラスを併願可能としました。これらは、志願者数増加の大きな要因となりました。

一方、共通テスト利用選抜は、前年度よりも志願者数が減少しました。2024年度入試は、志願者数が大幅に増加したため、隔年現象が生じたと考えています。また、前述の志願状況レポートの分析によれば、新科目「情報」を利用可とした大学の志願状況は好調だったようです。本学は、中期4科目型での利用は可能となりましたが、募集人員の多い前期3教科型・2教科型での利用は不可としましたので、この影響は多少あったと見ています。

この他、総合型選抜では、「探究活動評価型選抜」を新設し、36人の出願を得ました。今後、高等学校の探究活動の進展とともに、この入試も成長していければと考えています。

大学入試環境と 本学の対応

本学では、入学検定料の極端な割引制度や自動的に併願扱いとなるような制度は設けていません。他の大学では、このような制度の導入によって志願者数の前年比が200%超、300%超となっている場合があるようです。志願者数の増減は、大学を取り巻く環境を計る指標として、曖昧なものになってきました。

また、文部科学省の指針(大学入学者選抜実施要項)では、個別学力検査の試験期日は2月1日以降と示されていますが、これを遵守しない大学の動きが目立つようになり、一般選抜の志願動向にも影響が出ているようです。2025年度入試では、指針の解釈によって、学校推薦型として併願可能な個別学力検査を行った大学がありました。本学では、学校推薦の本来の意義を重視し、また高等学校に過度の負担を強いるものと考えて実施していません。本学では今後慎重に判断します。

受験生にとっての利便性や受験機会の確保を図ることは大切ですが、より大切なことは、個々の受験生にとって、最適な進学先の決定ができる入試であること、それを支援する高等学校等の先生方が安心して生徒に薦められることなどではないでしょうか。本学では、従来どおりオープンキャンパス等での情報発信を通じて、入学後のミスマッチを減らし、一般選抜を含めて、志望度が高い状態で志願していただけるよう取り組みます。建学の理念である「責任と信用」を体現する入試を心がけていきます。



就職状況報告

キャリアセンター長
池本 晋也

2024年度の就職環境

新卒者の就職動向を予測するための指標として活用されているリクルートワークス研究所の調査では「2025年3月卒業の大学生・大学院生対象の大卒求人倍率は1.75倍と、前年の1.71倍より0.04ポイント上昇した」と公表されていました。企業の採用意欲は依然として高かったものの、従業員規模や業種によって求人倍率に大きな差が見られました（大卒求人倍率の推移については「グラフ2」一番下の折れ線参照）。

2024年度のキャリア支援

学生の職業観形成に寄与するだけでなく、多くの企業がインターシップ等での接点を起点とした早期採用活動を行っているという現状を踏まえ、インターシップ等への参加を促す支援を強化しました。また、社会で活躍する卒業生の職業観に触れることが

学生の自己分析や職業および業界・企業理解に役立つと考え、学生と卒業生との接点強化にも注力して取り組みました。

4年生に対しては、合同企業説明会の定期的な開催とともに、企業訪問やアンケート調査等によって入手した採用活動継続企業情報を一覧化して提供するなどの支援を3月末まで粘り強く行いました。

2024年度(2025年3月卒業生)の就職状況

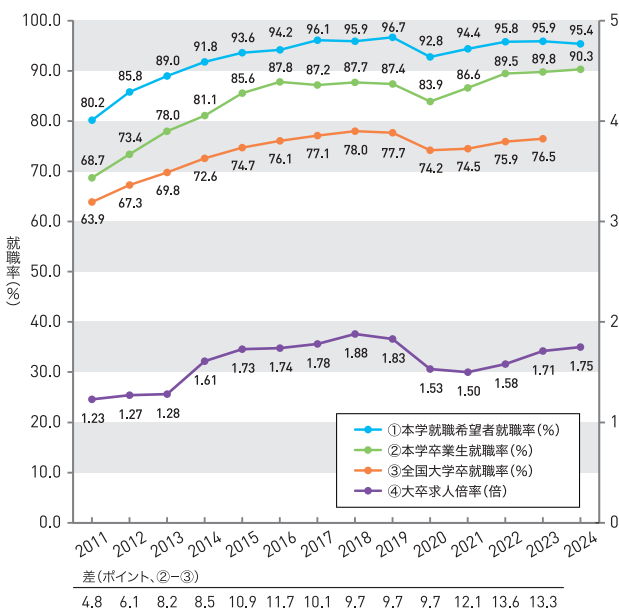
2025年3月卒業生の就職希望者就職率は95.4%(前年度95.9%)、卒業生就職率は90.3%(前

年度89.8%)となりました。(本学の就職率の推移については「グラフ2」上2つの折れ線参照)。

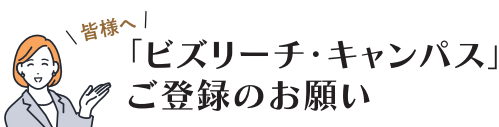
2025年度の主なキャリア支援

9月より株式会社ビズリーチが提供する「ビズリーチ・キャンパス」というサービスを導入します。「ビズリーチ・キャンパス」は限られた大学のみが利用できるサービスであり、同サービスの導入により、学生はOB/OG訪問の依頼面談までをオンラインで完結できるようになります。また、本学在学生も同サービス利用大学限定イベントへの参加が可能となります。

グラフ2 本学就職率・全国大学卒就職率・大卒求人倍率推移



- ① 本学就職希望者就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/(進路判明者数-就職を希望しない者の数)
② 本学卒業生就職率: 該当年度3月卒業生 3月31日時点の数値、就職決定者数/卒業生数
③ 全国大学卒就職率: 文部科学省学校基本調査、該当年度の就職者総数/全国の大学学部卒業生数 ※例年12月に公表
④ 大卒求人倍率: リクルートワークス研究所調査、求人総数/民間企業就職希望者数



平素より、在学生支援にご協力いただき誠にありがとうございます。本学では学生の職業観形成や業界・企業理解の促進を目的とし、OB/OG訪問プラットフォーム「ビズリーチ・キャンパス」(<https://obog.br-campus.jp/>)を導入する運びとなりました。世の中に膨大な情報が溢れる中、社会で活躍する卒業生から直接得られる情報の重要性が増しており、オンライン上で卒業生の検索から訪問の依頼・実施までを行える「ビズリーチ・キャンパス」を導入するに至りました。

つきましては、ぜひ学生支援へのご協力を賜りたく、本取り組みにご賛同いただける方は、OB/OG訪問対象として「ビズリーチ・キャンパス」へご登録いただけますと幸いです。

詳細は東京経済大学公式サイト、キャリアセンターのページをご覧ください。

https://www.tku.ac.jp/career/cc/alumnus_bizreach.html



※在学生の支援に関するお問い合わせはこちら
東京経済大学 キャリアセンター

TEL 042-328-7750 E-mail cc@s.tku.ac.jp



東京経済大学公式サイトのカリヤセンターページには、より詳しい内容を記載しています。

- Q 「ビズリーチ・キャンパス」を使ったOB/OG訪問はオンライン対応のみですか?
A はい。オンライン対応のみです。
- Q 学生からの訪問依頼にはすべて対応する必要がありますか?
A 訪問依頼に対して、対応可否をご判断いただけます。
- Q 登録したプロフィールは誰が閲覧できますか?
A ビズリーチ・キャンパスに登録している学生のうち、東京経済大学在学中の学生のみがプロフィールを閲覧できます。
(ただし、学生からの訪問依頼を承認するまで、学生の画面には卒業生の氏名は表示されません)
- Q 学生に対してどのような情報を公開するのでしょうか?
A 氏名*、社会人歴、性別*、高校名、大学名*、学部*、大学院名、卒年*、大学時代のサークルやゼミ等、在籍企業名*、業界名*、部署名*、役職*、職種*、勤務地*、業務内容*、前職(*がついている項目は登録必須項目です。)
- Q 登録後に、ビズリーチやその他企業から(OB/OG訪問に関係のない)営業メールが届く可能性はありますか?
A ビズリーチやビズリーチ・キャンパスの利用企業からの連絡はありません。「訪問依頼」以外の連絡内容として、サービスの改修、イベントへの協力案内、キャリアに関するアンケートの依頼が届く場合があります。なお、設定画面より、メールの受信拒否設定を行うことができます。

令和7年度予算

資金収支予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで（単位:千円）

科目	7年度予算	6年度予算	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,355,884	7,267,895	87,989
手数料収入	252,135	251,025	1,110
寄付金収入	36,400	94,022	△57,622
補助金収入	908,643	883,668	24,975
資産売却収入	2,212,000	444,750	1,767,250
付随事業・収益事業収入	64,563	60,172	4,391
受取利息・配当金収入	288,000	288,000	0
雑収入	168,376	193,221	△24,845
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,169,453	2,858,994	△1,689,541
その他の収入	1,036,629	1,144,978	△108,349
資金収入調整勘定	△2,964,488	△2,724,960	△239,528
前年度繰越支払資金	9,278,096	11,704,462	-
収入の部合計	19,805,691	22,466,227	△2,660,536
支出の部			
人件費支出	4,372,201	4,289,455	82,746
教育研究経費支出	2,745,155	3,111,337	△366,182
管理経費支出	521,803	495,408	26,395
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,777,103	1,145,851	631,252
設備関係支出	234,614	242,188	△7,574
資産運用支出	3,246,459	3,576,853	△330,394
その他の支出	35,000	354,146	△319,146
〔予備費〕	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△35,000	△37,107	2,107
翌年度繰越支払資金	6,898,356	9,278,096	△2,379,740
支出の部合計	19,805,691	22,466,227	△2,660,536

事業活動収支予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで（単位:千円）

科目		7年度予算	6年度予算	増減	
教育活動収支	収入の活動部	学生生徒等納付金	7,355,884	7,267,895	87,989
		手数料	252,135	251,025	1,110
		寄付金	35,250	37,698	△2,448
		経常費等補助金	908,643	883,668	24,975
		付随事業収入	64,563	60,172	4,391
		雑収入	168,376	193,221	△24,845
		教育活動収入計	8,784,851	8,693,679	91,172
	支出の活動部	人件費	4,392,288	4,345,793	46,495
		教育研究経費	3,477,308	3,836,663	△359,355
		管理経費	532,801	509,183	23,618
		徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計		8,402,397	8,691,639	△289,242	
教育活動収支差額		382,454	2,040	380,414	
教育活動外収支	収入の活動部	受取利息・配当金	288,000	288,000	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	288,000	288,000	0
	支出の活動部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	288,000	288,000	0
	経常収支差額		670,454	290,040	380,414
特別収支	収入の活動部	資産売却差額	76,456	37,846	38,610
		その他の特別収入	3,150	58,324	△55,174
		特別収入計	79,606	96,170	△16,564
	支出の活動部	資産処分差額	15,983	6,510	9,473
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	15,983	6,510	9,473
	特別収支差額		63,623	89,660	△26,037
	〔予備費〕		10,000	10,000	0
基本金組入前当年度収支差額		724,077	369,700	354,377	
基本金組入額合計		△1,113,120	△615,005	△498,115	
当年度収支差額		△389,043	△245,305	△143,738	
前年度繰越収支差額		62,463	307,768	△245,305	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△326,580	62,463	△389,043	
(参考)					
事業活動収入計		9,152,457	9,077,849	74,608	
事業活動支出計		8,428,380	8,708,149	△279,769	

寄付者ご芳名

学生支援奨学募金
大学奨学基金寄付金

二〇二五年七月
学校法人 東京経済大学 理事長 菅原 寛貴
東京経済大学 学 長 岡本 英男

ご芳名を掲載させていただきます。

引き続き「『進一層』募金」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご本人様のご了解をいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

今回は前号掲載以降から、三月末日までにご寄付をいただきました皆様のご芳名をご紹介します。

ご厚情に深く感謝申し上げます。

今回は前号掲載以降から、三月末日までにご寄付をいただきました皆様のご芳名をご紹介します。

東京経済大学へのご寄付について

2024年度 決算書概要

2025年度 予算書概要

学校法人東京経済大学の2024年度（令和6年度）の事業報告と決算が5月15日開催の理事会において承認され、確定いたしました。また、2025年度（令和7年度）の事業計画と予算は3月27日開催の評議員会・理事会において決定しています。2024年度決算書概要および2025年度予算書概要を掲載いたしますのでご覧ください。なお、2024年度事業報告書および2025年度事業計画は東京経済大学公式サイトに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

令和6年度収支決算

資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで（単位:円）

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,267,895,000	7,270,247,500	△2,352,500
手数料収入	251,025,000	244,869,482	6,155,518
寄付金収入	94,022,000	43,300,991	50,721,009
補助金収入	883,668,000	903,494,439	△19,826,439
資産売却収入	444,750,000	538,185,956	△93,435,956
付随事業・収益事業収入	60,172,000	60,514,500	△342,500
受取利息・配当金収入	288,000,000	293,883,658	△5,883,658
雑収入	193,221,000	200,979,229	△7,758,229
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,858,994,000	2,759,075,072	99,918,928
その他の収入	1,144,978,000	384,008,957	760,969,043
資金収入調整勘定	△2,724,960,000	△2,735,858,039	10,898,039
前年度繰越支払資金	11,704,462,000	11,704,462,135	-
収入の部合計	22,466,227,000	21,667,163,880	799,063,120

支出の部

人件費支出	4,299,455,000	4,283,885,067	15,569,933
教育研究経費支出	3,111,337,000	2,944,733,153	166,603,847
管理経費支出	495,408,000	564,069,474	△68,661,474
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,145,851,000	294,850,800	851,000,200
設備関係支出	242,188,000	245,640,912	△3,452,912
資産運用支出	3,576,853,000	3,578,978,804	△2,125,804
その他の支出	354,146,000	384,662,107	△30,516,107
〔予備費〕	{10,000,000}	-	0
資金支出調整勘定	△37,107,000	△131,709,834	94,602,834
翌年度繰越支払資金	9,278,096,000	9,502,053,397	△223,957,397
支出の部合計	22,466,227,000	21,667,163,880	799,063,120

貸借対照表

令和7年3月31日（単位:円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	38,435,535,624	35,776,556,780	2,658,978,844
（有形固定資産）	{17,279,147,165}	{17,477,597,333}	{△198,450,168}
（特定資産）	{9,781,087,567}	{9,411,761,834}	{369,325,733}
（その他の固定資産）	{11,375,300,892}	{8,887,197,613}	{2,488,103,279}
流動資産	9,558,092,165	11,870,940,178	△2,312,848,013
資産の部合計	47,993,627,789	47,647,496,958	346,130,831

負債の部

固定負債	2,897,584,588	2,846,828,188	50,756,400
流動負債	3,120,465,217	3,296,134,478	△175,669,261
負債の部合計	6,018,049,805	6,142,962,666	△124,912,861

純資産の部

基本金	41,748,932,521	41,196,766,793	552,165,728
第1号基本金	34,402,215,330	34,167,954,970	234,260,360
第2号基本金	2,033,814,414	1,733,814,414	300,000,000
第3号基本金	4,786,902,777	4,768,997,409	17,905,368
第4号基本金	526,000,000	526,000,000	0
繰越収支差額	226,645,463	307,767,499	△81,122,036
純資産の部合計	41,975,577,984	41,504,534,292	471,043,692
負債および純資産の部合計	47,993,627,789	47,647,496,958	346,130,831

事業活動収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで（単位:円）

科目		予算	決算	差異	
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	7,267,895,000	7,270,247,500	△2,352,500
		手数料	251,025,000	244,869,482	6,155,518
		寄付金	37,698,000	40,277,991	△2,579,991
		経常費等補助金	883,668,000	903,494,439	△19,826,439
		付随事業収入	60,172,000	60,514,500	△342,500
		雑収入	193,221,000	200,979,229	△7,758,229
		教育活動収入計	8,693,679,000	8,720,383,141	△26,704,141
	支出の活動	人件費	4,355,793,000	4,336,434,891	19,358,109
		教育研究経費	3,836,663,000	3,666,883,258	169,779,742
		管理経費	509,183,000	577,844,417	△68,661,417
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	8,701,639,000	8,581,162,566	120,476,434
	教育活動収支差額		△7,960,000	139,220,575	△147,180,575

教育活動外収支	収入の活動部	受取利息・配当金	288,000,000	293,883,658	△5,883,658
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	288,000,000	293,883,658	△5,883,658
	支出の活動部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		288,000,000	293,883,658	△5,883,658
	経常収支差額		280,040,000	433,104,233	△153,064,233

特別収支	収入の活動部	資産売却差額	37,846,000	37,845,335	665
		その他の特別収入	58,324,000	9,694,616	48,629,384
		特別収入計	96,170,000	47,539,951	48,630,049
	支出の活動部	資産処分差額	6,510,000	9,600,492	△3,090,492
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	6,510,000	9,600,492	△3,090,492
	特別収支差額		89,660,000	37,939,459	51,720,541

〔予備費〕	{10,000,000}	-	0
基本金組入前当年度収支差額	369,700,000	471,043,692	△101,343,692
基本金組入額合計	△615,005,000	△552,165,728	△62,839,272
当年度収支差額	△245,305,000	△81,122,036	△164,182,964
前年度繰越収支差額	307,768,000	307,767,499	501
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	62,463,000	226,645,463	△164,182,463
（参考）			
事業活動収入計	9,077,849,000	9,061,806,750	16,042,250
事業活動支出計	8,708,149,000	8,590,763,058	117,385,942

※個人情報保護のためのWEB掲載を控えさせていただきます。

寄付者ご芳名

※個人情報保護のためWEB掲載を控えさせていただきます。

国際交流奨学金寄付金

アドバンスプログラム
推進基金寄付金

安城記念奨学金寄付金

キャンパス整備募金

研究奨励募金
研究奨励基金寄付金

スポーツ振興基金寄付金

修学支援特別奨学金寄付金

ゼミナール等支援募金

東経の森・水と緑の募金

バレーボール部

柔道部

剣道部

陸上競技部

硬式野球部

〇体育会
端唄部

スポーツ・文化振興募金

税法研究会

サイクリング愛好会

グリークラブ

〇文化会
演劇研究会

軟式野球部

ハンドボール部

ラグビー部

サッカー部

ソフトテニス部

ヨット部

合気道部

スキー部

アメリカンフットボール部

現代法学部
キャリアデザインプログラム

経営学部

経済学部

教育振興資金

現物寄付

その他の寄付

落語研究会

PMA

東京経済大学へのご寄付をお考えの方は
こちらからお願いいたします。

<https://fundexapp.jp/tku/entry.php>



本学が募集している各基金の詳細については、
東京経済大学公式サイトをご覧ください。

<https://www.tku.ac.jp/tku/kifu/shogaku.html>



各部・サークルへの
ご寄付をお考えの方

インターネットからのクレジット決済による寄付をお考えの方は、上記二次元コードより本学寄付金公式サイトでの寄付目的「スポーツ・文化振興募金」を選択いただき、下段の支援先欄からご希望の部・サークル名を選択のうえ、寄付方法・寄付金額を選択してください（任意金額の入力可）。

振り込みによる
ご寄付をお考えの方

ゆうちょ銀行（郵便局）からお振込みをご希望の方は、校友センター募金室までご連絡ください。専用振込用紙をお送りいたします。
ゆうちょ銀行（郵便局）、銀行から直接お振込みをされる方は、以下の口座番号までお願いいたします。

ゆうちょ銀行

□口座番号 00180-2-263663

□加入者名 学校法人東京経済大学寄付金口

三菱UFJ銀行

□支店名 国分寺支店 □口座番号 (普)0283543

□口座名義 学校法人東京経済大学寄付金口

寄付金に関するお問い合わせはこちらまでお願いいたします。

総合企画部校友センター募金室

TEL 042-328-6100

E-mail bokin@s.tku.ac.jp

スポーツ・文化振興募金 における演劇研究会への寄付の活用についてご紹介

2024年度冬公演「Dig!!」代表者 山田 和輝(経営学部4年)

演劇研究会【劇団みつばち】では皆様からいただいた寄付金を、舞台を組むための材料費や、演劇で使う小道具、衣装代に活用させていただいています。2024年度の冬に葵陵会館で行った公演「Dig!!」では、主に作中で用いた着ぐるみのレンタル代に使わせていただき、私たちの作風としては珍しいダークコメディの演劇に挑戦し、来場者に楽しんでもらうことができたと考えております。

私たちは約40名の部員全員で力を合わせて、6月末の新人公演に向け準備を進め、稽古に励みました。新人公演ではこの春新たに加入した新入生が

主役となり、4本の短編集を行いました。上級生が卒業して4月に新体制となり、自分たちだけで皆様を楽しませることができの不安もありましたが、無事に終演を迎えることができました。次は9月末に秋公演を開催予定です。1年生を含めた新体制で、初めての長編作品に挑戦するべく、準備を進めています。公演の情報は公式SNSで随時発信しておりますので、ぜひご覧ください。今後とも応援のほど、よろしくお願い申し上げます。



X

演劇研究会
劇団みつばちの
SNSはこちら



YouTube



Instagram

参加費
無料

2025 東京経済大学・葵友会秋季懇親会

今年も開催! 東京経済大学に集い、世代を超え「会う」「語らう」「懐かしむ」イベントです。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

2025年11月1日(土) 15:00~(受付開始14:30) 東京経済大学 国分寺キャンパス 100周年記念館にて

申込方法

同封のチラシをご参照のうえ
必ず参加申し込みを行ってください。
WEB・郵送・メールの3つの申込方法があります。

WEB申し込み
(Googleフォーム)



来場記念品

東京経済大学
オリジナルグッズ
(会場での配布のみ)

お問い合わせ
(月~金 9:00~11:30 13:00~17:00)

東京経済大学校友センター・葵友会
(国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館 B1階)

TEL: 042-328-8033 / 042-328-6100
E-mail: tokeikiyukai@s.tku.ac.jp

東経大TOPICS

科学的な意思決定法を学ぶ経営学部・三和ゼミ生が 西武鉄道の連続立体交差事業を見学

教室での学びが社会でどのように実践されているのかを知る機会に

社会が抱える諸課題をオペレーションズ・リサーチ(科学的な意思決定法)により分析・解決する方法を研究する経営学部の三和雅史准教授ゼミは、2025年6月18日(水)、西武鉄道株式会社の協力を得て、同社の東村山駅付近で進められている連続立体交差事業を見学しました。

当日は、建設現場の事務所長から、この事業の内容やスキームに関して説明を受けた後、6月28日(土)夜から翌朝に予定されている高架橋上新線(新宿線下り)への切換え直前の現場や新しい駅設備などを見て回ったほか、同社関係者との質疑応答が行われました。



現場見学では、ホームドアが一直線に設置されていないのは、さまざまな長さの列車の発着に対応するためであることや、駅部においては営業線の直上に高架橋を作る工法を採用しているため、ボルト1本の落下でも大事故につながる危険があることから、極めて慎重に工事が進められていることを学びました。また、日中の営業時間帯と、終電から初電までの夜間のわずかな時間の中で効率的に工事を進めるための工夫や、沿線環境に配慮した設備や施工法などについても、実際の現場や実物を見ながら説明を受け、理解を深めることができました。

無限期間の消費・投資計算に数学的正当性を確立 経済学部・重田准教授の論文が国際学術誌に掲載受理

経済学部の重田雄樹准教授による研究論文が、国際学術誌『Finance and Stochastics』(SPRINGER NATURE社)に掲載受理されました。

重田准教授の論文により、マクロ経済学およびファイナンス分野において注目される「再帰的効用関数」を用いた無限期間にわたる消費・投資計画の数学的な正当性が証明され、この研究成果により、将来にわたる消費と投資の最適な配分を考える際の理論的な基盤がより強固なものとなると考えられています。

利益予想と市場反応の関係性を解明 経営学部・金鉉玉教授らの論文が国際学術誌に掲載

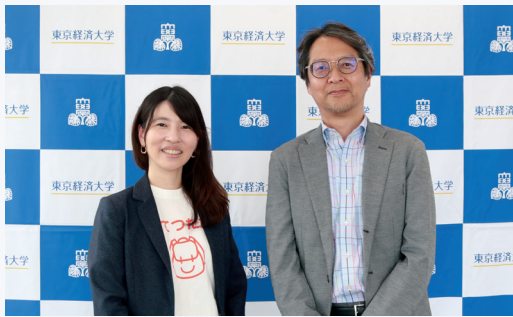
経営学部の金鉉玉教授らが共同で取り組んだ研究論文が、国際学術誌『Review of Managerial Science』(SPRINGER NATURE社)にオンライン掲載されました。

本研究は、早稲田大学大学院経営管理研究科と仁荷大学(韓国)との国際共同研究として実施されたものです。当期の利益予想を達成できなかった日本企業が、翌期に強気の予想を発表することで、市場からのネガティブな評価を和らげようとする行動傾向が発見され、この研究成果は、強気な利益予想が印象マネジメントとして機能することを示しており、今後の関連手法の解明が期待されています。

コミュニケーション学部と 「おてつたび」の連携が始まります

コミュニケーション学部は、地域の季節的・短期的な人手不足をキッカケに地域の関係人口を創出するマッチングサイト『おてつたび』を運営する株式会社おてつたび(代表取締役CEO:永岡里菜、本社:東京都渋谷区)と連携をスタートしました。

また、連携のスタートを記念し、コミュニケーション学部長佐々木裕一教授と株式会社おてつたび代表取締役CEO永岡里菜氏の対談記事が、2025年6月6日(金)、公開されました。



株式会社おてつたび代表取締役CEO永岡里菜氏(左)と
コミュニケーション学部長佐々木裕一教授

対談記事は
こちらから



おてつたびとは、「お手伝い」と「旅」を掛け合わせた造語で、人手不足に悩む地域の農家や旅館およびホテル等と旅行者をつなぐ人材マッチングサービスです。お手伝いという新しい旅の目的をすることによって、著名な観光名所ではない地域にも人が訪れ、地域の人手不足の解消だけではなく、地域活性化や地域のファン(関係人口)の創出をめざしています。

コミュニケーション学部は2022年度から「国際コミュニケーション学科」と「メディア社会学科」の2学科体制となり、国際コミュニケーション学科では文化と英語と観光、メディア社会学科ではメディアと広報などをそれぞれ軸とした教育を展開しています。また大きな特徴である少人数教育でのゼミやワークショップ、海外短期研修などを通じて、対人関係力、異文化理解力、情報発信力といった“変化の時代を生き抜く力”を実践的に身につけることをめざしています。

今回の連携を通じて、コミュニケーション学部の約1000名の学生に対して、「おてつたび」の仕組みを訴求し、働くことを通じて全国各地へ主体的に入り込む機会を提供することで、“学生自身の多様な価値観への理解の深化”と“地域の価値創造および魅力の再発見”をともに図っていきます。

具体的な連携内容として、2025年度はコミュニケーション学部1年次キャリア科目「キャリアデザイン入門」、国際コミュニケーション学科専門科目「多文化社会で働く」で株式会社おてつたびによるゲスト講義などを予定しています。

文化会所属サークルの春の祭典。 2025年度「文化の花道」開催

2025年5月28日(水)から6月4日(水)にかけて、春の恒例行事「文化の花道」を開催しました。この催しは、文化会に所属する各サークルが日頃の活動成果を学内外に向けて発信する場です。

6月3日(火)には、落語研究会による新入生紹介を兼ねた寄席が開かれ、大学入学後に稽古を始めた新入生が初めての高座に挑みました。約1カ月の練習を経て臨んだ本番では、「少し緊張していますが、笑ってもらえたら十分です」と語り、堂々と演じて客席から笑い声がわいていました。終演後には、やり切った表情で「挑戦してよかった」と満足感をにじませる姿が見られました。



落語研究会による寄席



Beginning Tribeによるダンス・パフォーマンス

今の私たちにできることは？ ミャンマーを応援する特別シンポジウム 「ミャンマー地震をめぐって考える 文化とコミュニケーション」を開催

ミャンマー中部で発生した大地震の被災者を支援する特別シンポジウム「ミャンマー地震をめぐって考える文化とコミュニケーション」が、2025年4月22日(火)に開催されました。本イベントは、学生主体の支援プロジェクト「アーティンターバー(ミャンマー語で“あきらめるな”の意)プロジェクト」の一環で、異なる文化的背景や立場の人々の語りを通して、多文化共修と異文化理解を深めることを目的に開催されました。

当日は、教員や在学生、卒業生らがパネルディスカッションで登壇し、ミャンマーの現状や被災地の状況、日本の学生ができる支援のあり方などについて意見を交わしました。会場では質疑応答も活発に行われ、参加者からは「当たり前が当たり前でない国があると実感した」「自分にできる支援を考えたい」といった声が寄せられました。



東京経済大学報 第58巻第1号(夏号)アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で
10名様に東経大グッズをプレゼントさせていただきます。
右の二次元コードから、ぜひご回答をお願いします。



本学卒業生で写真家・エッセイストのハービー・山口氏(1973年卒)が表紙写真を担当!大学の今を皆様にお届けします。

撮影後記

ハービー・山口氏より

今号の表紙撮影にご協力いただいた3名は、2025年度に学部開設30周年を迎えるコミュニケーション学部の学生で、優秀な学業成績を修めた学生に贈られる「年次学長賞」を受賞した2年次・3年次・4年次の学生です。彼らは礼儀正しくとても明るい性格の持ち主でもありました。そんな彼らが将来に向かって飛躍するエネルギーを表現するためにジャンプしてもらいました。背景に写っているのはブルーの壁面が特徴の6号館です。国分寺キャンパスの中でも一際目立っていて、ポジティブな雰囲気を演出してくれています。



東京経済大学 www.tku.ac.jp

第58巻 第1号 2025年7月発行
発行・編集 東京経済大学広報課 〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
誌面に関する問い合わせ: 広報課: [TEL]042-328-7724 [E-mail]pr@s.tku.ac.jp

冊子の発送先変更・発送停止: 校友センター

TEL 042-328-6100

E-mail tokeikiyukai@s.tku.ac.jp

卒業生各種変更
(住所・勤務先・改姓等)

